

平成18年11月15日

各位

会社名 株式会社テン・アローズ  
代表者名 代表執行役社長 三屋 裕子  
(コード番号 9885 大証第二部)  
問合せ先 経理部 部長 谷口 博樹  
TEL (078)792-7414

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成18年9月14日に公表しました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

### 1. 平成19年3月期中間連結業績予想数値の修正(平成18年4月1日～平成18年9月30日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	27,995	1,127	△337
今回修正予想 (B)	27,721	1,076	△759
増減額 (B-A)	△274	△50	△422
増減率	△1.0	△4.4	—
前期(平成18年3月期中間)実績	31,551	391	592

※当社の中間個別業績予想の修正はありません。

### 2. 平成19年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	56,408	1,314	△691
今回修正予想 (B)	56,408	1,314	△1,020
増減額 (B-A)	—	—	△329
増減率	—	—	—
前期(平成18年3月期)実績	61,134	1,091	△76

※当社の期末個別業績予想の修正はありません。

### 3. 修正の理由

#### (1) 連結業績予想の修正の理由

##### 中間期

売上高につきましては、平成18年9月14日に公表いたしました業績予想より若干の下振れはあるものの、概ね予想どおり推移しております。

経常利益予想の修正につきましては、売上高の変動に伴う影響によるものであります。

中間当期純利益につきましては、422百万円減少し759百万円の中間当期純損失となる見込みです。

これは、売上高の変動に伴う影響に加え、ギフト卸売事業において、当初、予定しておりました、未交換ギフト券の収益計上基準の会計処理変更を取り止めたことにより、その影響額（特別利益400百万円）を修正するものであります。

#### 【未交換ギフト券の収益計上基準の会計処理変更が取り止めになった理由】

未交換ギフト券の収益計上については、従来は税法の規定に従い販売後4年を経過し商品と交換がされないものを収益計上する方法を採っておりました。

しかし、当中間期よりギフト券の個別管理が把握できるようになったことから、販売後1年を超えて商品と交換されないものに対し、交換実績率を用いて将来未交換となる部分を収益計上する方法に会計処理を変更することで、期初より監査法人を始めとする関連各方面と調整を済ませ、その影響額として特別利益400百万円を見込んだ上で業績予想の開示を行っておりました。

しかしながら最終の段階で監査法人より、現状の会計基準の中での会計処理の変更は難しく、従来どおりの会計処理が妥当との申し入れを受けたため、予定しておりました会計処理の変更を中止することといたしました。これにより、当初見込んでおりました特別利益400百万円が発生しなくなるため、中間当期純損失を759百万円に修正するものであります。

##### 通 期

売上高、経常利益とも上半期の未達分を下半期でカバーすることは可能と考えており、通期の業績予想は修正いたしません。

当期純利益につきましては、通期の見通しについても会計処理の変更による影響額を見込んでおりましたので、その影響額を修正するものであります。

(注) 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想と異なる場合があります。

以 上